

身近な100円ショップ商品テーマ



100円ショップの商品と類似品を比べる
作品の展示スペース＝浜松市中央区で

自分の目で…価値を再認識

文化芸術大「百聞は一見にしかず展」

100円ショップの商品を題材に学生が考えた展示会「百聞は一見にしかず展」が10日、浜松市中央区中央の静岡文化芸術大西キヤラリーで始まった。「何度も聞くより自分の目で見るほうが確実」という意味の言葉どおり、身近な商品の本当の価値を再確認する企画。22日まで。

学芸員の養成課程を履修する芸術文化学科の3年生18人が1点ずつ展示した。100円で買える文房具や食器を並べ、製造の過程を工作で表現したり、一般の店で販売されている高価な類似品と比べたりすること、商品を購入する時に大

切にする価値観を考えてもらうという狙い。

石原瑠奈さん(21)は、それぞれデザインや形が異なる五つのグラスを置き、どれが一番好きかをタグ付けしてもらった体験型の作品を出した。「金額も機能も変わらない中で何を重視するか考えてほしい」と紹介する。

河原崎茜さん(21)は、100円と2千円の電卓など価格の違う商品を並べ、どちらを選ぶかシールを貼ってもらった作品。「SNSで知る他人の評判が自分にとっても正しいとは言えない。人によって求める機能が違う。他人の価値観を知ること、たくさんの人と交流できる」と語った。

展示は午前9時～午後6時。12～14日は大学入学共通テストのため休館。16、18、22日には学生が自身の作品を解説するギャラリートークがある。(荒木正親)